

射水市新湊地区小学校
適正規模と適正配置に関する中間報告書
一中伏木小学校の規模・通学区域のあり方について一

平成21年7月

射水市新湊地区学校等のあり方検討委員会

目次

はじめに

1 検討経過

2 中伏木小学校の現状と課題

(1) 児童数と学級数(複式学級)の推移と予測

(2) 小規模校における課題

3 中伏木小学校児童の通学区域

新湊小学校と中伏木小学校の児童生徒数の推移

4 中伏木小学校・新湊小学校の統合実現に向けて配慮すべき事項

地域としての歴史的・文化的まとめ

新湊小学校との交流事業

通学距離、通学時間及び通学手段

受入校の教育環境整備について

空き施設への適切な対処

5 今後の検討課題

6 中間報告を終えて

はじめに

全国的な少子化傾向は、射水市（新湊地区）においても例外ではなく、さらに過疎化による人口減少によって児童生徒数が大幅に減少し、全市的に幼、小・中学校の小規模化が進んでいます。

こうした中、園児数、児童生徒数の逓減傾向にある新湊地区の幼稚園及び小・中学校（以下「対象学校等」という。）におけるより良い教育環境を整備し、充実した教育の実現に資するため、対象学校等の適正規模、適正配置等について検討を重ねてきているところです。

特に中伏木小学校においては児童数の減少が著しく、平成23年度には3つの複式学級になると予測されることから、早急に対応することが必要と判断し、現段階での中間のとりまとめを行ったので、次のとおり報告します。児童生徒数の減少と学校の小規模化は、残念なことに、今後もさらに進むことが確実であり、こうした小規模化は、学習集団としての学校の機能を低下させ、児童生徒が切磋琢磨する機会や、スポーツ活動などの選択肢の幅を狭めるばかりです。

また、十分な教職員数を確保できず、教える側の組織力も低下し、教育条件、教育環境、学校運営等のあらゆる面で様々な問題が生じてきています。

このようなことから、将来を担う子どもたちの目線に立って、教育的な観点から適正規模と適正配置に関する審議を重ね、ここに基本的な中伏木小学校の今後のあり方についてまとめることができましたので、中間報告いたします。

平成21年7月30日

1 検討経過

平成21年6月5日に第1回射水市新湊地区の学校等のあり方検討委員会を開催し、役員を選出や部会毎（幼稚園部会、小学校部会、中学校部会）に課題や検討事項の洗い出し、検討事項の点検・協議を行っていくことを決定し、小学校部会において、早急に中伏木小学校のあり方について検討していくことを確認しました。

なお、平成21年6月24日に第1回小学校部会、平成21年7月21日に第2回小学校部会を開催しました。

教育委員会が平成20年度に2度開催した中伏木小学校保護者懇談会と平成21年5月20日に開催した中伏木小学校の地元関係者との懇談会における意見等について事務局からの報告があり、中伏木小学校の規模・通学区域等のあり方について各委員の意見を求めたものであります。

2 中伏木小学校の現状と課題

(1) 児童数と学級数（複式学級）の推移と予測

近年、児童数の減少が著しく、現在の児童数は39名です。平成19年度には3・4年生のクラスが複式学級となり、平成20年度は2・3年生と4・5年生の2クラス、平成21年度は3・4年生と5・6年生の2クラスが複式学級になっています。

中伏木小学校区の子どもの出生状況によれば、平成22年度以降も児童数の増加が見込めない状況であり、平成23年度には児童数が35名で3クラスが複式学級になると予測されます。

また、同校区は大規模な宅地開発を計画できる土地が困難であることや近隣の富岡町から同校への入校が望めないことなどから、将来的にも児童数増が見込まれない状況です。

資料 中伏木小学校の児童数と学級数(複式学級)の推移と予測

(2) 中伏木小学校における課題

中伏木小学校のような小規模校におけるメリットとデメリットは、おおむね次のようなかたちで整理されます。

メリット

- ・ 児童の一人ひとりに目がとどきやすく、きめ細やかな指導が行いやすい。
- ・ 学校行事において、児童一人ひとりの個別の活動機会を設定しやすい。
- ・ 児童相互の人間関係が深まりやすい。

- ・ 異学年間の縦の交流が生まれやすい。
- ・ 全教職員間の意思疎通が図りやすく、相互の連携が密になりやすい。
- ・ 学校が一体となって活動しやすい。
- ・ 施設の利用時間帯等の調整が行いやすい。
- ・ 保護者や地域社会との連携が図りやすい。

デメリット

- ・ 集団の中で、多様な考え方に触れる機会や学びあいの機会、切磋琢磨する機会が少なくなりやすい。
- ・ 1学年1学級の場合、ともに努力してよりよい集団を目指す、学級間の相互啓発がなされにくい。
- ・ 運動会などの学校行事や音楽活動等の集団活動に制約が生じやすい。
- ・ 児童、教職員が少ないため、グループ学習や習熟度別学習、小学校の専科教員による指導など、多様な学習・指導形態を取りにくい。
- ・ クラス替えが困難なことなどから、人間関係や相互の評価等が固定化しやすい。
- ・ 集団内の男女比に極端な偏りが生じやすくなる可能性がある。
- ・ 組織的な体制が組みにくく、指導方法等に制約が生じやすい。
- ・ 教職員数が少ないため、経験、教科、特性などの面でバランスのとれた配置を行いにくい。
- ・ 学年別や教科別の教職員同士で、学習指導や生徒指導等についての相談・研究・協力・切磋琢磨等が行いにくい。
- ・ 教職員一人に複数の校務分掌が集中しやすい。
- ・ 複式学級の担任教員は2つの異なる教材を用意したり作るなどの学級運営に関する負担が大きい。
- ・ P T A活動に伴う保護者の役割分担や、一人あたりの経費の負担が大きくなりやすい。

3 中伏木小学校児童の通学区域

通学区域については、「学校教育法施行令」第5条第2項で、「市町村の教育委員会は、当該市町村の設置する小学校又は中学校が2校以上ある場合において、(中略)就学すべき小学校又は中学校を指定しなければならない。」とされています。

これを踏まえ、射水市教育委員会では、地理的条件や地域との関係等を考慮し、児童の住所地ごとに就学しなければならない学校を定めており、これを通学区域としています。

新湊地区では、平成21年度現在、小学校で8の通学区域を定めています。

中伏木小学校の児童数と学級数（複式学級）の推移と予測では、過度に小規模化し複式学級になると様々な教育上の支障が生じる恐れがあります。

よって、通学区域が近隣している新湊小学校の通学区域を見直しし、平成22年4月から中伏木小学校児童が新湊小学校に通学することが望ましいと判断しました。

資料 中伏木小学校と新湊小学校が同一通学区域の場合の児童数と学級数の推移と予測

4 中伏木小学校通学区域変更の実現に向けて配慮すべき事項

地域としての歴史的・文化的まとめ

適正規模、適正配置が不可欠であるとはいえ、現在の通学区域も含め、地域にはそれぞれ歴史的、文化的なつながりがあります。

こうした地域の歴史的、文化的なことがらについて、十分配慮することが必要です。

新湊小学校との交流事業

両校では河川敷清掃やスポーツ少年団を通して交流活動を実施してきているが、両校の児童がより違和感なく一緒になれるよう、早急に交流活動や合同学習を実施することが必要です。

通学距離、通学時間及び通学手段

適正規模により、ふさわしい教育環境としての学校規模は実現することができませんが、児童にとって通学が負担となつては十分な効果を得ることができなくなります。

庄西地域については、保護者負担が生じない最善の通学手段を確保することが必要です。

受入校の教育環境整備について

活力と魅力あふれる学校づくりの推進のため、受入校である新湊小学校の周辺環境も含めた教育環境の整備が必要です。

空き施設への適切な対処

適正規模化による再編を行うことにより、空き施設が生じることになります。

行政内部での検討はもとより、県や文部科学省とも十分な協議を行い、空き施設・土地の有効活用等について方針を定めておかなければなりません。地域住民の意見を十分に聞くなど、あらかじめ最善の対処方法を構築しておく必要があります。

5 今後の検討課題

今回、わたしたちに依頼された射水市新湊地区の幼、小・中学校の適正規模を検討するにあたり、緊急課題となっている中伏木小学校の子ども達の状況をまず検討してまいりましたが、新湊地区の小学校の教育環境の充実や子どもたちの健やかな成長を促すため、引き続き以下の点について検討を重ねていきたいと考えています。

- ・ 小学校の通学区域の見直しに関すること
- ・ 家庭での役割、地域での役割、そして学校で果たすべき役割の分担等について再考し、子どもの教育に効果を発揮することができるようなシステムづくりに関すること
- ・ 子どもが切磋琢磨し、向上心を養うことができるシステムづくりに関すること
- ・ 子どもたちが様々な体験を通じて豊かな心を育むことができる環境づくりに関すること
- ・ 教育に関する新たな評価の尺度に関すること

上記のほか、昨今の教育を取り巻く環境は急速に変化しており、こうした状況の変化に対して、柔軟に、速やかに、かつ的確に対応していくことが必要であると考えます。

6 中間報告を終えて

近年の少子化や核家族化の進行など、家庭や地域における教育環境が変化してきている中、学力を身につけることはもとより、集団生活を通じて競争心や向上心を培いながら、子どもたちが健やかに育つための場としての学校の役割は益々大きくなってきています。

将来の庄西地域の子どもたちが、小・中学校の9年間で、一人ひとりの個性を伸ばしながら、社会に出て行くために必要な「生きる力」を身につけ、未来に向けて逞しく羽ばたいていけるよう、学校関係者、保護者、行政と地域の方々の全てが、いま置かれている状況を十分に理解し、お互いに力を合わせてこの課題に取り組み、限りなく理想のかたちに近づいていくよう努力されることを強く要望します。